

》 2 災害時の対応 飼い主編

01 災害が発生したら(人とペットの安全確保)

災害時には飼い主自身の安全を確保することを大前提とし、それからペットの安全を確保します。ペットもパニックになり、いつもと違う行動をとることがあるので、落ち着かせましょう。

万が一、ペットとはぐれた場合も、まずは飼い主自身の安全を確保し、その後で動物愛護センターや警察に届け出しましょう。



02 どこに避難するか(避難する場所の選択)

災害時、飼い主はペットと同行避難することが基本ですが、状況に応じて避難場所を選択する必要があります。素早く避難できるか、避難途中で危険はないか、自宅は安全にいられるかなど、状況はそれぞれ違いますので何がベストかを考えます。

同行避難する場合は、避難時に逃がさないため、首輪が緩んでいないか破損していないか確かめて、リードをつけるかケージに入れて避難しましょう。



市の避難所に避難する

ペットの受入れについて、あらかじめ区役所や避難所に問い合わせましょう。避難所ではルールを守り、周囲へ配慮しましょう。

施設や親せき、友人宅に避難する・預ける

動物病院や民間の施設(ペットホテルなど)、地域の親せきや友人など、日頃から複数の預け先を探しておきましょう。



在宅避難(自宅で管理する)

自宅が倒壊などの危険がない安全な状況で、危機が迫っていないならば、自宅にとどまることも可能です。あらかじめハザードマップで自宅にどのような危険が潜んでいるかを把握し、避難状況に従い、適切に行動しましょう。



熱中症などに注意

※車中泊(車での管理)はエコノミークラス症候群や熱中症などの危険を伴うために注意が必要です。



災害時のフロー図

